

昼神温泉 **リニア** 新時代構想

【リニア新時代に輝き続ける昼神温泉の実現のために】

(概要版)

2020 年（令和 2 年）10 月

阿智村・(株)阿智☆昼神観光局

昼神温泉の半世紀の歩みと未来への期待

昼神温泉の歴史と果たしてきた役割

- ・昭和 48 年 国鉄中津川線のボーリング調査中に温泉が湧出
- ・高度成長期、中央道延伸が後押し
→有数の温泉地に成長
- ・伊那谷の宿泊機能の役割、観光の牽引役

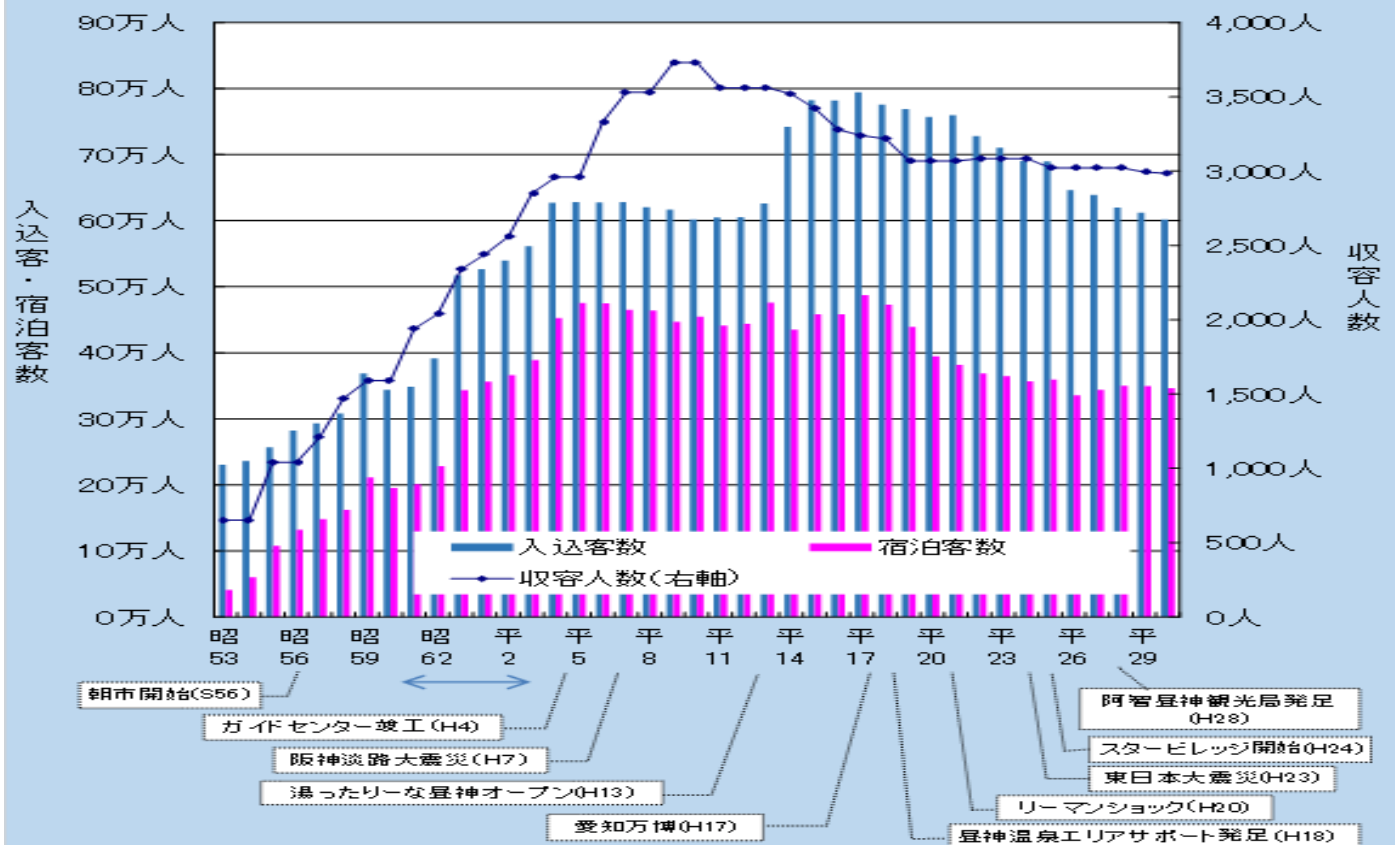
日本経済・社会構造の大変革の到来

- ・バブル経済崩壊→長い低迷の時代に突入
- ・度重なる大災害の発生
- ・人口減少・超高齢社会の到来
- ・未知の感染症への対応
→価値観の大転換→的確かつ前向きに捉え、
柔軟かつ積極的な挑戦が必要

今後（人口減少・超高齢社会）の昼神温泉への期待・果たすべき責務

- ・今や昼神温泉は地域の主要産業
- ・縮小する地域内消費→観光誘客で消費確保
- ・昼神温泉の責務＝地域への誘客を牽引→将来に渡る健全な地域経済を 1 実現
- ・村行財政への大きな寄与
- ・身近に温泉のある健康で豊かな村民生活の堅持

昼神温泉の収容人数と入込客数の推移



昼神温泉の現状（課題と強み）

社会・経済情勢、価値観の変容

- ・実感の乏しい景気回復、所得格差拡大
- ・医療・介護や社会保障費の負担増など構造的課題
- ・人口減少・超高齢化の進展、消費の縮小、人材不足による経済活動の減退、
- ・技術革新、デジタル化、通信技術の進展、価値観の多様化

多様化する価値観・需要とのミスマッチ

- 多様化が進む需要に対する供給のアンバランス
- 団体から個人へ（旅行単位の小規模化・単泊化）
 - 訪日外国人旅行者の急増
 - 観光客の嗜好の変化（“もの”から“こと”へ）
 - 情報源・判断材料の多様化（SNS・口コミ等）
 - 若者の車離れ

社会的要請と責任

社会的要請への対応

- 環境への配慮
- 福祉・人権意識の高まり
バリアフリー・ユニバーサル・ジェンダーフリー など
- 多様な働き方
- 防災対策・災害時対応

《新たな試練》未知の感染症への対応

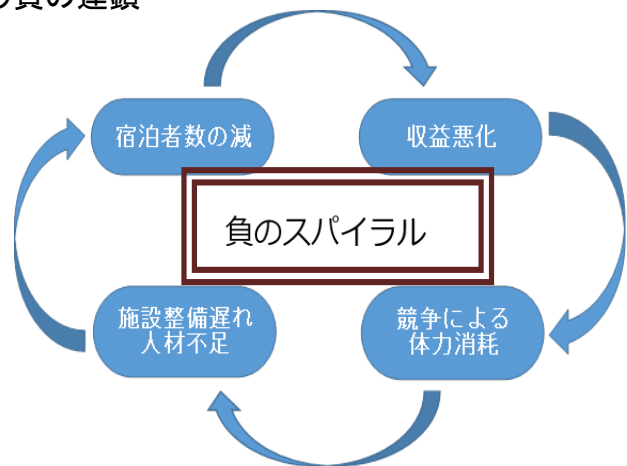
これまでに経験したこののない新たな経営上の危機

- With コロナの時代への備え
- 新たな生活様式・価値観による観光モデルの構築

現実のものとなりつつある経営危機

出湯から半世紀が経過し、浮き彫りになる経営危機

- 施設の老朽化
- 慢性的な人手不足
- 繁忙期と閑散期の存在
- 負の連鎖



昼神温泉浮上の光明（成功体験）

全国に誇る観光資源の活用

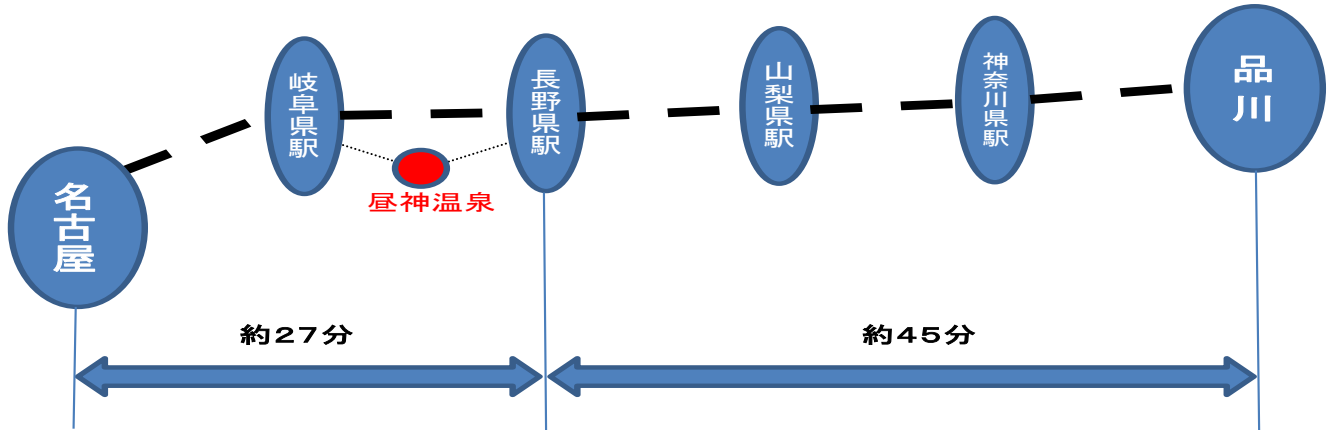
- 日本一の花桃の里
- スタービレッジ
日本一の星空×世界記録樹立
- 蒙開拓平和記念館



“リニア新時代”への備え

目前に迫る千載一遇のチャンス（南信州の転換点）

- ・ リニア中央新幹線、三遠南信自動車道がもたらす千載一遇のチャンス
- ・ メリットを最大限引き出す（地域活力減退の懸念を排除する）取組が必要



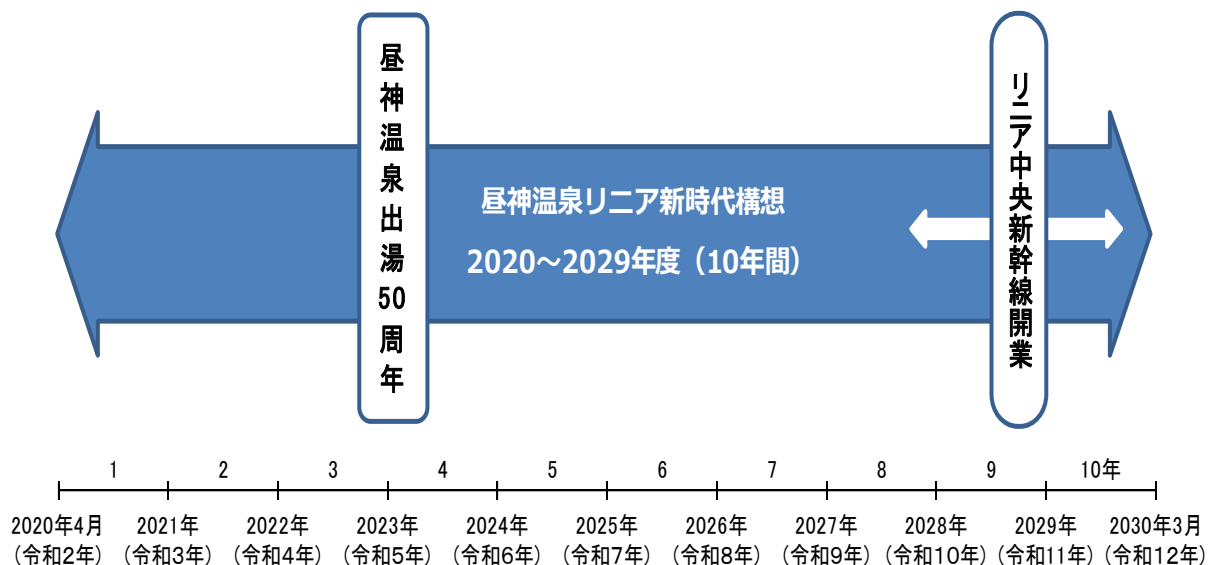
潮流を捉えた的確・積極的な戦略の必要性

- 昼神温泉将来構想検討委員会による答申（平成30年11月）
- 昼神温泉将来構想シンポジウム開催（令和元年9月）
- 集出荷直売施設に関する答申（令和2年1月）



「昼神温泉リニア新時代構想」の策定

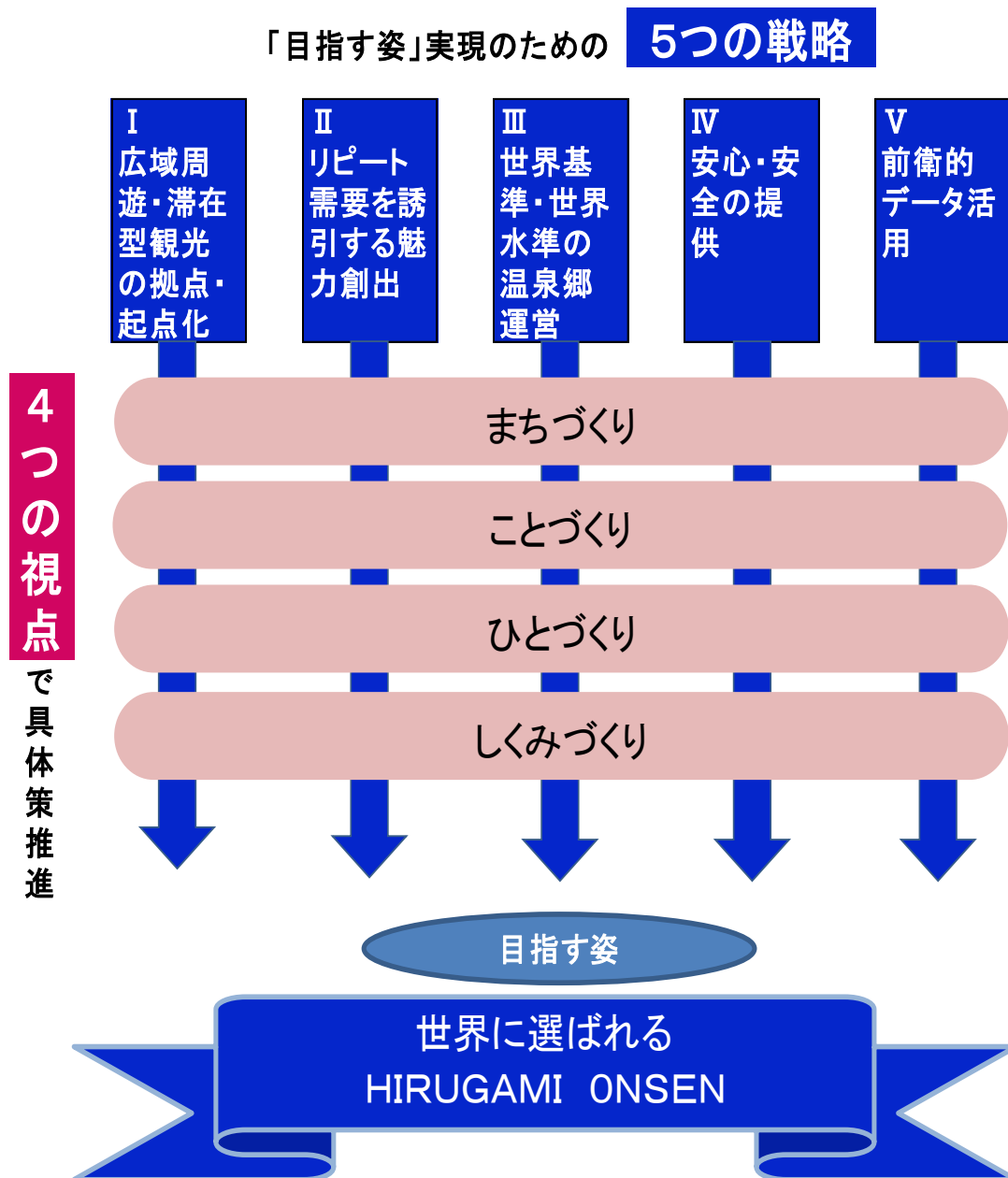
- ・ リニア開業により訪れる“リニア新時代”の姿を描く
- ・ 2020年度（令和2年度）～2029年度（令和11年度）を構想期間と想定



“リニア新時代”に昼神温泉を目指す姿

目指す姿 = 「世界に選ばれる HIRUGAMI ONSEN」

5つの戦略と4つの視点から実現を目指します



4づくりによる5戦略の主な推進策一覧

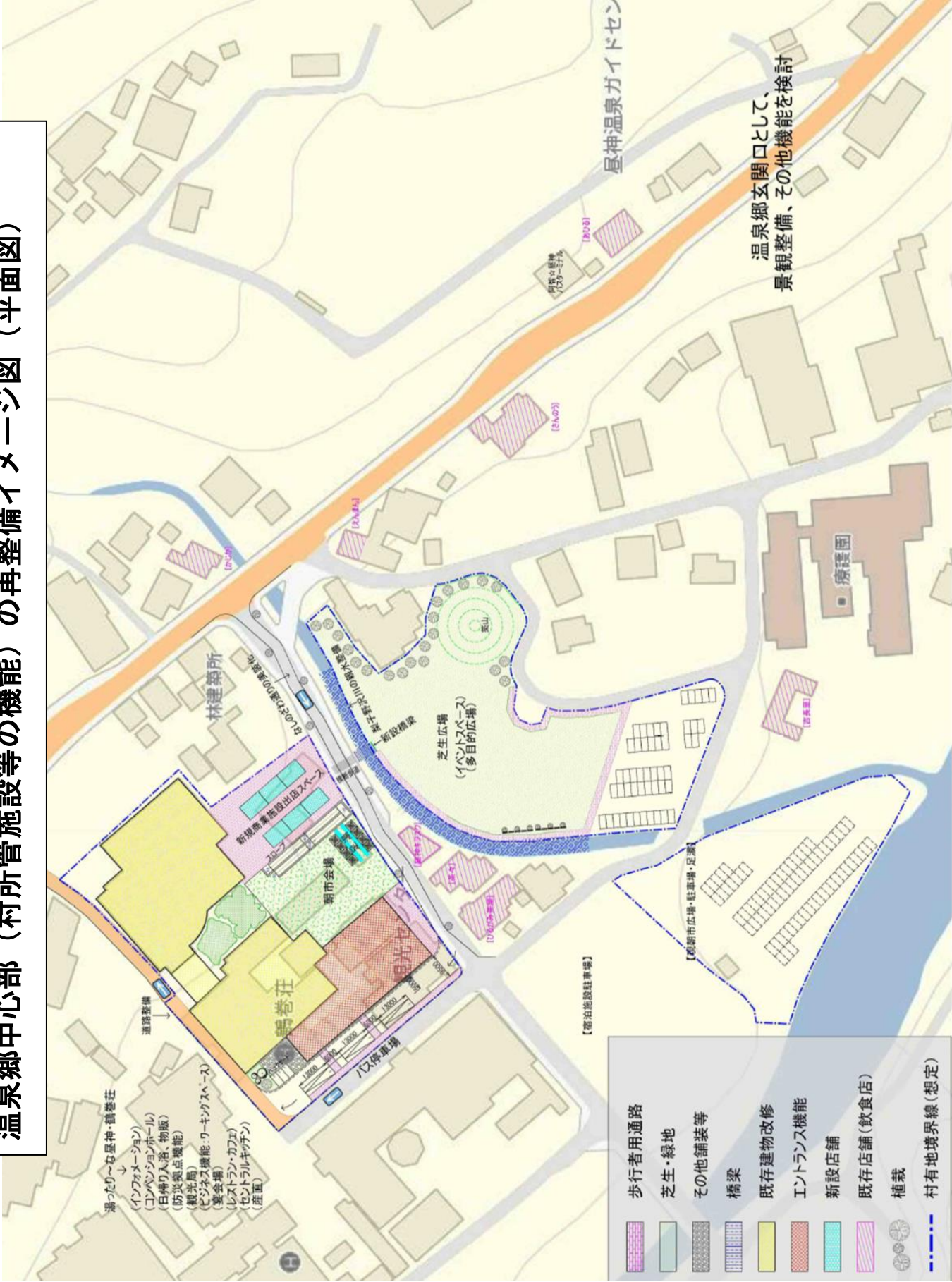
戦略 視点		I 広域周遊・滞在型 観光の拠点・起点 化	II リピート需要を誘引する魅力創 出	III 世界基準・世界水準の温泉 郷運営	IV 安心・安全の提 供	V 前衛的 データ 活用
① まちづくり	アクセス確保	・リニア中央新幹線との結節(二次交通(バス路線)の確保 ・他の観光地・地域内へのアクセス(三次交通)の確保 ・各宿泊施設を巡るシャトルバスなどの導入 ・車両のクリーンエネルギー化	・だれにも解りやすい案内板(交通誘導・案内表示)の整備	・世界基準に配慮した開発、運営 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの積極採用 ・環境配慮型施設・設備の導入、運営	・クリーンモビリティの導入 ・自動運転車両の導入	・歩車分離、歩行者優先道路の検討
	温泉街整備	・中心地への交通ターミナル機能の集約(国道256号沿いの活用も検討) ・村所管施設等の機能見直し・再整備 ・観光局機能の効果的分散配置 ・サイクルツーリズムの中継地・拠点の整備	・まち歩き、そぞろ歩きを誘引する環境整備(四季(自然)・温泉らしさ・和の癒し等に配慮した景観、水辺(清流)を活かした風景、星空に配慮した灯りなど) ・中心部の賑わい創出(村所管施設の機能見直し・再整備、観光局の移転配置、朝市、産直市場、飲食店、カフェ、足湯、日帰り温泉等の機能の効果的配置、ランドマーク施設(温泉の駅(仮称))として一体運営) ・フオトスポットの効果的配置 ・電線等の地中化の検討		・シェアオフィス、コアワーキングスペースの整備(リゾートテレワーク・ワーケーションの推進) ・コンベンション施設の設置 ・泊食分離への対応	・災害時の一時避難施設(コンベンション施設と兼用)の整備
	②(体験・コンテンツ)ことづくり	・他の観光地との連携推進	・既存コンテンツの充実・次の事業展開 ・地域資源に着目した無二のコンテンツの開発・充実 ・繁忙期と閑散期のギャップ解消 ・地域食材を活用した食、ご当地グルメの提供 ・高品質・高付加価値のサービス・商品の提供、地元や県内需要の取り込みの促進(Withコロナ・Afterコロナ対応) ・プロスポーツクラブとの連携 ・優れた泉質に着目した美容・健康・福祉分野の展開 ・女性視点の企画・商品開発	・ギネス世界記録の活用 ・ユニバーサルツーリズムの推進 ・弱者視点のコンテンツ・サービスの提供 ・周辺地域(木曽等)を訪れるインバウンドの宿泊地化 ・インバウンド向けのコンテンツ開発 ・多言語・他文化対応のサービス展開	・安全に配慮したコンテンツ運営・提供 ・感染症予防策の徹底による新たな営業スタイルの確立(Withコロナ・Afterコロナ対応)	
	③ひとづくり	・広域観光に対応できるガイドの養成 ・村内各地の観光資源を案内できるガイドの育成・組織化	・利用者の声や第三者機関による品質管理のしくみの活用による接客向上等 ・従業員一人一人、地域に住む一人一人のおもてなし意識の醸成・高揚 ・人材確保のための学生インターンシップの受入 ・地域の誇りや愛着の醸成、おもてなしの意識の高揚	・誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「心のバリアフリー」の推進 ・多様で柔軟な働き方改革、雇用環境の改善による幅広い人材の確保 ・外国語対応ができる人材確保・育成 ・国際インターンシップの積極的受け入れ、文化や言語の交流促進 ・基幹産業としての観光に対する住民理解の促進	・事業者や従業員の意識の高揚による防災・危機管理機能・能力の強化・充実	
④ しくみづくり		・MaaSの導入 ・送迎バスの共同運航(シャトルバス等) ・昼神温泉と村内や近隣観光地を結ぶ情報共有ネットワーク ・中心地拠点施設の一体運営	・SNS等(写真・動画・ハッシュタグ・インフルエンサー活用等)による情報発信 ・訪れる度に増すお徳感の創出(リピーター・インフルエンサーに対する特典) ・農産連携による安定した地域食材の供給や地産地消のしくみづくり ・女性目線による温泉地づくり ・利用者の声や第三者機関による品質管理のしくみの活用を通じた温泉郷全体の品質向上	・SDGsを踏まえた取組 ・CO2フリー電気等の積極的な採用、脱プラスチック、古紙のリサイクル、廃棄物の削減 ・地球環境保全に係る財源確保(ふるさと納税、クラウドファンディング等) ・環境保全プログラム等への協力・参加 ・先端設備・新技術の積極的な導入支援 ・農産物・米などの地域内調達 ・人材確保・育成、多様な働き方の実現	・防災・危機管理対応の強化・充実(地域全体の避難のしくみの再構築) ・認証制度などによる感染予防策の徹底(Withコロナ・Afterコロナ対応) ・温泉地経営を揺るがす外的危機発生への公的支援のあり方の検討	
						来訪者の動向や人々の嗜好や関心事(GPSデータ、ネット検索、SNS分析等)の積極的・継続的分析等による戦略展開

温泉郷中心部（村所管施設等の機能）の再整備の方向性

- ・施設の老朽化も踏まえた上で、“リニア新時代”に向け昼神温泉に必要な機能の再整備を実施
- ・昼神温泉のランドマークともいえる環境や機能を配備し、中心部に賑わいを創出

施設名	現行機能	再整備の方向性(イメージ)
公営保養センター (鶴巻荘)	村民福祉・地域活性化のための温泉宿泊施設	・現4施設を一体化した新施設として再整備(観光案内所、日帰り温泉、宴会場、飲食店、直売市場、足湯、コンベンション・防災機能、コワーキングスペース、観光局事務所など) ・宿泊機能・プールは廃止も視野に検討(廃止に当たっては村民需要への対応を別途検討(業務委託等)) ・写真童画館機能は、全村博物館構想も踏まえ配置先を検討 ・リニア二次交通・三次交通の発着点、交通ハブ機能(※国道256号沿いへの設置案も併行して検討) ・一体的施設運営のしくみを検討
温泉利用公営施設 (湯ったりーな昼神)	健康福祉の増進・観光振興のための日帰り温泉施設・プール	
昼神温泉観光センター(熊谷元一写真童画館、飲食店、売店)	観光振興のための展示施設、ホール、店舗	
農林水産物直売・食材供給施設	農産物直売・蕎麦打ち体験等	
朝市広場		・朝市は現観光センター北側付近に移転 ・跡地はモータープール(駐車場・シェアカー等の基地)として整備
昼神パーキング		
その他		・多目的広場(昼神パーキング北側) ・周辺道路・遊歩道整備 ・梨野沢川景観整備

温泉郷中心部（村所管施設等の機能）の再整備イメージ図（平面図）



「世界に選ばれる」ために備える「世界水準」

- ・ 世界基準の観光地（温泉郷）として世界に認知されることが必要
- ・ 「日本一の星空×世界記録樹立」に「世界の先進地」との認知の上乗せが必要
- ・ 国連が提唱する持続可能な開発のための 2030 アジェンダ＝SDGs の視点が有効

SDGs (Sustainable Development Goals)

2015 年(平成 27 年) 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された 2030 年(令和 22 年)を年限とする 17 の国際目標で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すもの

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



実現に向けた各主体の役割・推進体制・進め方

各主体が担う役割

- ・ 村、観光局のみの取組では実現不可能
- ・ 携わる各主体の役割の自覚、主体的取組
- ・ 複層的な取組の相乗効果で確かな潮流に

将来構想推進のための体制（組織）

- ・ 関係者参画の「昼神温泉リニア新時代構想推進委員会」を設置
- 構想の共有、ONE TEAM による事業進捗

計画的・効果的な事業進捗

節目を踏まえた企画・発信・事業展開

○2025 年 昼神温泉出湯 50 周年

○2027 年 リニア中央新幹線開業目標

温泉郷整備スケジュール

- ・ リニア開業を見据えた計画的整備
- ・ 開業の遅れの如何によらず着実に進捗